

令和5年度  
後期学校評価



南部町立南部中学校



# 令和5年度 南部町立南部中学校 グランドデザイン

## 校訓 「明朗親和」「質実剛健」「自主自律」

### 学校教育目標（めざす生徒像）

- ◇ ふるさとを愛し、自他の良さを認め合い、絆を大切にする生徒
- ◇ 社会の一員としての自覚を持ち、健康でたくましく生きる生徒
- ◇ 真理を追究し、夢の実現へ向け努力できる生徒

実現するための7の柱  
と具体的方針

### めざす教師像

- 高い理想と強い使命感を持ち、学び続ける教師
- 確かな指導力を持ち、共感的生徒理解に努め、信頼される教師
- 教育的愛情と高い規範意識を持ち、心身ともに健全な教師
- チーム南部中の一員として、学校運営に積極的に参画する教師

### 学校経営の理念

- 【経営理念】 「地域とともにある南部中学校の創造！」
- 【実践理念】 「気づき・考え・行動 そして感動」

### 1 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施

- 「コミュニティ・スクール」として、社会に開かれた教育課程の編成と実践
- 小中連携、「連携型中高一貫教育校」としての取組
- 学習指導要領や生徒や地域の実態に即した教育課程の推進とPDCA サイクルによる改善
- 地域の特色を活かした教育と外国語教育の充実

### 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現による学力向上

- 各教科の見方・考え方を働かせる授業改善
- 言語活動の充実とさせ、思考力や表現力を高める
- ICTを効果的に活用した授業づくり
- やまなしスタンダードによる授業改善ときめ細かな指導
- 読書活動の推進と効果的な家庭学習の習慣化

### 3 個性の尊重とおもいやり心・豊かな心の育成

- より良い道徳の授業づくりと道徳教育の推進
- 共感的理解を基本にした生徒指導と基本的生活習慣や規範意識の向上
- 所属感や自己有用感を感じられる学級・学年経営
- 長期欠席や集団不適應に対する重点的取組と生徒や保護者に寄り添った教育相談体制の充実
- 「いじめ防止基本方針」に基づいたいじめの早期発見、迅速・丁寧な対応
- 情報モラル教育の推進
- 生徒指導における共通理解とチームでの対応
- 小学校、高校との連携による切れ目ない生徒指導

### 4 健康な身体の保持と体力向上

- 保体の授業を中心に、自ら運動を実践する態度の育成
- 部活動の地域移行を視野に入れた「部活動に係る活動方針」に基づく適切で効果的な部活動運営
- 健康、安全、食に関する教育の推進
- 生徒や職員の適切な健康管理と的確な緊急時対応

### 5 ニーズに応じた特別支援教育の充実

- 校内委員会やケース会議の積極的活用と個別の生徒の実態に適した合理的配慮の実施
- 外部の関係機関との連携による効果的な支援
- 交流・共同学習や障がい(者)理解教育の推進
- 特別支援教育に関する研修の実施

### 6 安全・安心を基盤とした、保護者や地域とともにある学校づくり

- 学校運営協議会の機能の充実と家庭や地域との連携・協働の推進
- 地域の教育資源の活用と地域貢献活動の推進
- 実効性のある防災・防犯教育の推進と安全管理体制の充実
- PTAとの連携強化と家庭教育の推進

### 7 教職員の指導力と協働体制の向上

- 校内研究を通じた授業力向上と計画的な校内研修
- 職員の同僚性の向上と「チーム」としての協働体制
- 業務の重点化と精選、校務支援システムの活用、部活動の地域移行を視野に入れた働き方改革の推進

地域の教育資源の活用

### 特色ある学校づくり

地域貢献活動の推進

コミュニティ・スクールの取組

実践的防災・安全教育

生徒会活動を中心とした南中  
文化の継承・発展

連携型中高一貫教育校の取組

# 令和5年度後期自己評価

## 学校経営方針の7つの柱に沿っての分析と改善策

|  |                                    |
|--|------------------------------------|
| <b>I 校訓</b>                              |                                    |
| ◎ 明朗親和                                   | 明るく朗らかで、互いに和やかに親しむこと (あかるく)        |
| ◎ 質実剛健                                   | 飾り気がなくまじめで、心身ともに強くたくましいこと (つよく)    |
| ◎ 自主自律                                   | 自発的に考え行動し、自らの規範に従い自己を律すること (のびやかに) |
| <b>II 学校教育目標 (めざす生徒像)</b>                |                                    |
| ◇  | ふるさとを愛し、自他の良さを認め合い、絆を大切にする生徒       |
| ◇  | 社会の一員としての自覚を持ち、健康でたくましく生きる生徒       |
| ◇  | 真理を追究し、夢の実現へ向け努力できる生徒              |
| <b>III めざす教師像</b>                        |                                    |
| ○  | 高い理想と強い使命感を持ち、学び続ける教師              |
| ○  | 確かな指導力を持ち、共感的生徒理解に努め、信頼される教師       |
| ○  | 教育的愛情と高い規範意識を持ち、心身ともに健全な教師         |
| ○  | チーム南部中の一員として、学校運営に積極的に参画する教師       |
| <b>IV 学校経営の理念</b>                        |                                    |
| <b>【経営理念】 「地域とともにある南部中学校の創造！」</b>        |                                    |
| ～子どもたちの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐコミュニティ・スクールとして～ |                                    |
| <b>【実践理念】 「気づき・考え・行動 そして感動」</b>          |                                    |

| 0 学校教育目標・学校経営 |   |      |     |       |
|---------------|---|------|-----|-------|
| 対象            | 質問内容  | 平均値  | 最頻値 | 前期平均値 |
| 教職員           | 0-(1) 本校の「学校教育目標」や「学校経営方針」は、今日的教育課題をふまえ、南部中学校の実態に即したものにしている。            | 3.67 | 4   | 3.70  |
|               | 0-(2) 私の学年、学級、分掌の教育活動計画は学校の「学校教育目標」や「学校経営方針」をふまえたものになっている。              | 3.50 | 3   | 3.45  |
|               | 0-(3) 私は「めざす教師像」を意識しながら、日々の実践にあたっている。                                   | 3.20 | 3   | 3.32  |
|               | 0-(4) 私は、経営理念「地域とともにある南部中学校の創造!」、実践理念「気づき・考え・行動 そして感動」を意識して、教育活動を進めている。 | 3.38 | 3   | 3.52  |
| 保護者           | 0 本校の「学校教育目標」や「学校経営方針」は、今日的教育課題をふまえ、南部中学校の実態に即したものにしている。                | 3.25 | 3   |       |
| 生徒            | 0-(1) 私は、「学校教育目標」(めざす生徒像)を理解し、「あかるく、つよく、のびやかに」学校生活を送っている。               | 3.45 | 4   | 3.32  |
|               | 0-(2) 私は、実践理念「気づき・考え・行動・そして感動」の過程を意識して、授業や行事、部活動など学校生活を送っている。           | 3.35 | 3   | 3.40  |

### 【分析】

○教職員アンケートの0-(1)の平均値が3.67、保護者アンケートの0が3.25、生徒アンケートの0-(1)が3.45となっている結果から、「学校教育目標」や「学校経営方針」は教職員、生徒、保護者に比較的理解されており、学校や生徒たちの実態に即したものとなっていると考えられる。

○生徒アンケートの0-(2)「実践理念『気づき・考え・行動 そして感動』の過程を意識して、授業や行事、部活動など学校生活を送っている」の平均値は、前期3.40、後期とも3.35となっており、この実践理念を意識しながら生徒たちが学校生活を送っていることがわかる。

○前期平均値に比べ後期平均値が低い項目が多い。いずれも3.0を超えている数値である。

### 【改善策】

校訓、学校教育目標、めざす教師像、学校経営の理念は、統合時の新南部中創立

時の願いを元にしており、その間、若干の修正を加えてはいるが、これまでの学校の歴史と文化を受け継いできた思いが込められている。教職員・生徒・保護者にも深く理解されていることから、基本的な内容は来年度も継続していきたい。

後期の数値が下がっていることを考慮すると、教職員が現状に満足せず、高い理想を持って教育にあたる意欲こそ学校の原動力となる。教職員の目標とすべき「めざす教師像」についても、年度当初の職員会議を始め、各学期のはじめなど、節目節目に教職員で確認する機会を設け、今後も意識を高めていきたい。

**1 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施に努める** <\*教務主任, 教頭, 各教科主任>

- ①「コミュニティ・スクール」として、社会に開かれた教育課程の編成とその実践に努める。
- ②小中連携や「連携型中高一貫教育校」としての取り組みを進め、小・中・高の接続を意識した効果的な教育課程の編成と実践を行う。特に中・高においては体系化されたキャリア教育の推進に努める。
- ③新学習指導要領に基づき生徒や学校の実態に即して教育課程を編成、実施し、PDCAサイクルによって改善に努める。
- ④地域の特色を生かした教育を推進し、郷土への理解と誇りを持てるようにするとともに、外国語教育を充実させることを通して、グローバル社会の中で様々な人と協働できる資質の育成に努める。

| 1 「生きる力」を育む適切な教育課程 |       |  |      |   |      |
|--------------------|-------|--|------|---|------|
| 教職員                | 1-(1) | 本校は、コミュニティ・スクールとして、保護者や地域に積極的に情報を発信し、保護者や地域の声を学校経営や教育活動に生かしている。      | 3.52 | 4 | 3.65 |
|                    | 1-(2) | 本校は、小中連携、連携型中高一貫教育校としての取り組みを推進し、小中高の連携を意識した教育課程の編成と実施に努めている。         | 3.57 | 4 | 3.48 |
|                    | 1-(3) | 本校は、学習指導要領に基づき、生徒や学校の実態に即した教育課程を編成し、PDCAサイクルによる改善を図っている。             | 3.33 | 3 | 3.22 |
|                    | 1-(4) | 本校は、地域の特色を生かした教育活動を推進し、郷土への理解と誇りを育む教育活動を展開している。                      | 3.57 | 4 | 3.57 |
| 保護者                | 1-(1) | 学校では、生きていく上で必要な知識や技術、考えなどを学ぶことができています。                               | 3.21 | 3 |      |
|                    | 1-(2) | 学校行事は楽しく、生徒のためになっている。  | 3.32 | 3 |      |
|                    | 1-(3) | 輝城祭や音楽発表会は、生徒の豊かな心を育てる上で意義ある活動になっている。                                | 3.54 | 4 |      |
|                    | 1-(4) | 学校は、地域の特色を生かした教育活動を推進し、郷土への理解と誇りを育む教育活動を展開している。                      | 3.19 | 3 |      |
|                    | 1-(5) | 「福祉施設訪問」「職業体験学習」「ワイド相談」などのキャリア教育に関わる行事や進路学習は、生徒にとって将来を考える良い機会となっている。 | 3.47 | 4 |      |
| 生徒                 | 1-(1) | 学校では、生きていく上で必要な知識や技術、考えなどを学ぶことができています。                               | 3.60 | 4 | 3.50 |
|                    | 1-(2) | 学校行事は楽しく、自分のためになっている。  | 3.61 | 4 | 3.67 |
|                    | 1-(3) | 学級活動、学年活動、生徒会活動(委員会)は集団での力をつける機会になっている。                              | 3.68 | 4 | 3.67 |
|                    | 1-(4) | 輝城祭や音楽発表会は力を伸ばし、成就感が得られる行事になっている。                                    | 3.71 | 4 |      |
|                    | 1-(5) | 「職業調べ」「福祉施設訪問」「ワイド相談」「職場体験学習」「高校調べ」「進路学習会」などは、自分の将来や生き方考える機会となっている。  | 3.59 | 4 | 3.70 |
|                    | 1-(6) | 部活動は、自分の力を高め、授業では学べないことを学べる機会になっている。                                 | 3.71 | 4 | 3.66 |
|                    | 1-(7) | 身延高校との連携(アシスト授業、合同部活動、サマーセミナー、キャリアセミナー、演劇指導など)は役に立っている。              | 3.58 | 4 | 3.56 |

**【分析】**

① について

○教職員アンケートの 1-(1)の平均値は前期誤差程度の差の 3.52 であることから、前期と同様コミュニティ・スクールとしての取り組みをはじめ、保護者や地域住民への積極的に情報発信を行うとともに、保護者や地域住民の声を聞く機会を設けて、出された意見を教育課程に取り入れようと努めていることがわかる。

② について

○教職員アンケート 1-(2)の平均値が前期とほぼ変わらず 3.57 であることから、本校の教育課程は、小中の連携、中高の連携（連携型中高一貫教育）を取り入れた教育課程に近づいていると言える。生徒アンケート 1-(7)の連携型中高一貫教育校としての前期の取組（アシスト授業、合同部活動など）について、生徒たちは 3.58 と比較的高い評価をつけており、生徒たちも中高連携事業の効果を肯定的に捉えている。

○生徒アンケート 1-(5)の福祉施設訪問、職業ワイド相談、職場体験学習、高校調べ、進路学習会などのキャリア教育や進路学習についての評価は、生徒の平均値が 3.59 でこちらも高い評価となっている。保護者の平均値は 3.47 とやや低いように思われるが、十分高い値である。

③ について

○教職員アンケート 1-(3)の平均値も前期と大差なく 3.33 であり、本校の教育課程は新指導要領に基づいた生徒や学校の実態に即したものとなっていると言える。学校評価を前期・後期に 2 回実施したり、学校行事の実施後には教職員、生徒、保護者等に事後アンケートを実施したりして、PDCAサイクルによる教育内容の改善にも取り組んでいる。

○生徒アンケート 1-(2)の「学校行事は楽しく自分のためになっている。」の項目で、平均値が 3.61 と高い評価となっている。これは、学校行事は生徒たちにとって学校の楽しさの大

きな要因になっていると考える。

○生徒アンケート 1-(3)の結果を見ると前期同様、3.68 という高い評価になっている。学級活動、学年活動、生徒会活動を通して、集団の力を培っているという実感を生徒自身も持っていることがよくわかる。保護者アンケートの 1-(2)、1-(3)の平均値はそれぞれ 3.32、3.54 となっており直接見ることができた輝城祭・音楽発表会などの行事についての評価は高い傾向にある。

④について

○教職員アンケート 1-(4)で地域の特色を生かし、郷土への理解と誇りを育む教育活動についての推進については前期と同値の平均値 3.57 という比較的高い評価であった。しかし、保護者アンケートの 1-(4)の平均値は 3.19 とやや低い傾向にあることが懸念される。学校で行っている、地域に関わる教育活動の内容が保護者に伝わっていないか、もしくは保護者の要望まで届いていない可能性がある。

### 【改善策】

①②について

- ・今後も継続してコミュニティ・スクールや連携型中高一貫教育校、小中連携の内容を教育課程に取り入れながら、生徒や地域の実態に即した教育課程を編成していきたい。連携型中高一貫校として5年目となり、転換期を迎えている。身延高校とも連携を密にしながらいよいよ連携を心がけていきたい。また、特に小中連携については、9年間を見通してどのような生徒に育てたいのかを明確にした上で、9年間の教育課程を編成することを模索していくことが求められている。

③について

- ・常にPDCAサイクルを意識しながら、全職員でカリキュラム・マネジメントを行い、年間指導計画の日常的なアップデートに力を入れていく。特に、学校評価の結果から改善策を踏まえた教育課程を編成していきたい。そのためにも校内教育課程編成会議を開催することも視野に入れつつよりよい教育課程を作成する雰囲気づくりを心がけたい。

④について

- ・「地域とともにある南部中学校の創造！」は本校の経営理念であるが、地域の特色を生かした教育活動は新型コロナウイルスのために実施が難しい状況が続いていたが、5類に移行したことで徐々に元に戻りつつある。生徒やその家族、教職員の健康や安全を第一に考えながら、もう一度1つ1つの教育活動を見直しより効果的な教育活動を行っていくのと同時に、これまで以上に活動内容の情報発信を心がけたい。また、学校活動ボランティアの有効な活用も今後とも前向きに検討していきたい。

## 2 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、確かな学力の向上に努める <\*研究主任、教務主任、図書主任>

- ①各教科等の「見方・考え方」を働かせ「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けた授業改善を図る。
- ②自らの考えを发表或し、記述したりする内容を取り入れ、思考力や表現力を高める。
- ③情報活用能力の育成に向け、ICTを効果的に活用した授業を推進する。
- ④「やまなしスタンダード」を取り入れた授業づくりと個に応じたきめ細かな指導に努める。
- ⑤読書活動を推進し、授業と結びつけた家庭学習の習慣化に努める。

| 2 確かな学力の向上 |       |  |      |   |      |
|------------|-------|--|------|---|------|
| 教職員        | 2-(1) | 私は、一人ひとりの学力の向上を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいる。           | 3.17 | 3 | 3.37 |
|            | 2-(2) | 私は、授業に自らの考えを发表或し、記述したりする内容を取り入れ、思考力や表現力を高める工夫をしている。              | 3.16 | 3 | 3.40 |
|            | 2-(3) | 私は、授業に「やまなしスタンダード」の視点を取り入れるとともに、個に応じたきめ細かな指導に努めている。              | 3.16 | 3 | 3.25 |
|            | 2-(4) | 私は、家庭学習を習慣化させるために、授業と結びつけた宿題や自主学習等の指導を行っている。                     | 2.79 | 3 | 3.25 |
|            | 2-(5) | 本校は、朝読書や図書委員会の活動などを通して、読書活動を推進している。                              | 3.38 | 3 | 3.41 |
|            | 2-(6) | 私は、学力を向上させるために、ICTの活用を心がけている。                                    | 2.95 | 3 | 3.20 |
|            | 2-(7) | 私は、学習指導要領に基づき、生徒の学力を適切に評価し、授業改善を図るため、評価基準や評価方法を明確にした授業づくりに努めている。 | 3.28 | 3 | 3.40 |
| 保護者        | 2-(1) | 教員は、生徒の学力を向上させるためにわかりやすい授業に努めている。                                | 3.06 | 3 |      |
|            | 2-(2) | 教員は、評価についてわかりやすく説明し、生徒の学力や努力を適切に評価している。                          | 3.05 | 3 |      |
|            | 2-(3) | 教員は、家庭学習を習慣化させるために、宿題や自主学習などの指導を行っている。                           | 3.06 | 3 |      |
|            | 2-(4) | 学校は、朝読書や図書委員会の活動などを通して、読書活動を推進している。                              | 3.20 | 3 |      |
| 生徒         | 2-(1) | 授業は、わかりやすく理解できる。   | 3.31 | 3 | 3.45 |
|            | 2-(2) | わからないところは先生に質問でき、先生の評価は公平である。                                    | 3.50 | 4 | 3.49 |
|            | 2-(3) | 授業では、めあて(目標)を確認でき、振り返りを行っている。                                    | 3.21 | 3 | 3.37 |
|            | 2-(4) | グループ学習や意見交換、発表活動は、学習を深めることにつながっている。                              | 3.57 | 4 | 3.72 |
|            | 2-(5) | ICT(タブレット、デジタル教科書、大型テレビ)を使った授業はわかりやすい。                           | 3.57 | 4 | 3.64 |
|            | 2-(6) | 私は、宿題や自主学習などの家庭学習を習慣的に行っている。                                     | 3.10 | 3 | 3.23 |
|            | 2-(7) | 私は、朝読書や図書読を積極的に行っている。  | 3.09 | 3 | 3.30 |

### 【分析】

#### ①②について

○教職員アンケート、生徒アンケートの関連項目は、共に前期に引き続き「主体的・対話的で深い学びの実現」「思考力や判断力を高める工夫」「評価規準・評価方法の明確化」で、教員による授業改善がなされ、その結果が生徒に実感されているという結果がでていいる。校内研究のテーマともなっている「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けた授業改善とりくめたとと言えるであろう。

#### ③について

△教職員アンケートの「私は、学力を向上させるために、ICTの活用を心がけている」については、前期は3.20あったが、後期には2.79であった。昨年度に比べて、今年度前期は値が好転したが、また下降してしまった。この調査だけからは、断言はできないが、1学期と2学期と比較し、授業の中でICTを活用する妨げになる要因があったのではないかと推察される。

#### ④について

○教職員アンケートは昨年度に改善された結果が、前期と後期に継続されている。やまなしスタンダードの視点を意識しつつ「個別最適な学び」を実現するための授業改善がすすめられていると言えよう。

⑤について

- 「読書」については、前期に引き続き、教職員アンケート、保護者アンケート、生徒アンケート共に3.0以上の数値が出ている。「図書読」の実施により、新しい本との出会いが促されていると考えられる。またこの調査より後の取り組みであるが、「図書集会のビブリオバトル」は「本」「読書」について生徒に興味を持つ機会となっていた。

△教職員アンケートにおいて、前期3.25だった数値が後期2.79と評価が悪化している。2学期の方が1学期よりも授業スタイルが確立し、より授業改善を進めることができると考えられるが、逆の結果となっている。この調査からは低下した要因は推測することしかできないが、家庭学習の指導は、授業時間以外に「評価」や「準備」などの時間をかけることが必要となる。1学期に比べて効果的な指導ができなかったと感じる要因があったのではないかと推察される。

**【改善策】**

**①②**について

- ・各教科で行っている「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善をさらに進めていく。
- ・子どもが「わかりやすい」と思える授業づくりをめざしていく。

**③**について

- ・授業を担当する全職員が「少しでも自分の授業の中で、効果があるとされる活用法を実施する」という意識をもって取り組んでいく。

**④**について

- ・子どもが「授業の目標」を確認し、「見通し」と「ふりかえり」が授業の中でできていると実感できるよう授業改善を行っていくことで、学習内容の概要を捉えられるようにしていきたい。

**⑤**について

- ・今後も「図書読」などの図書委員会の取組みを継続させていくとともに、学級でも「読書」の時間を大切にしていきたい。
- ・家庭学習については、校内研究のテーマとなっている「授業と結びついた家庭学習」、「生徒が成果を実感できる家庭学習」となるような改善を進め、生徒が自己効力感を感じることで学習への動機づけを高めるような取り組みとしていきたい。



**3 一人一人の個性を大切に、思いやりの心や豊かな心の育成に努める。** <\*生指主事, 教頭, 道徳主任, 生徒会主任>

- ① 「特別の教科 道徳」のより良い授業づくりに取り組み、効果的な道徳教育を推進する。
- ② 共感的理解を基本とした生徒指導に努め、基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上を図る。
- ③ 生徒主体の自治的集団づくりを推進するとともに、すべての生徒が所属感や自己有用感を感じられる学級経営・学年経営に努める。
- ④ 長期欠席（不登校）や集団不適應の改善を最重点課題とし、生徒や保護者の気持ちに寄り添った教育相談体制を築くとともに、専門家や外部の関係機関との連携を図りながら取り組む。
- ⑤ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの予防、早期発見、迅速、丁寧な対応を心がける。
- ⑥ 情報モラル教育を推進し、インターネット、スマホ等の利用に伴うトラブルや危険を防止する。
- ⑦ 生徒指導上の諸問題について教職員の共通理解を図り、チームとして迅速・適切・丁寧に対応する。
- ⑧ 町内各小学校、高等学校と情報を共有し、切れ目ない効果的な生徒指導を展開する。

| 3 思いやりの心や豊かな心の育成 |        |   |      |   |      |
|------------------|--------|---|------|---|------|
| 教職員              | 3-(1)  | 私は、「特別の教科 道徳」の趣旨や目的に即したより良い授業づくりに取り組んでいる。                           | 3.22 | 3 | 3.40 |
|                  | 3-(2)  | 私は、共感的理解を基本にした生徒指導に努めるとともに、基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上に努めている。               | 3.30 | 3 | 3.57 |
|                  | 3-(3)  | 私は、すべての生徒が所属感や自己有用感を感じられるような学級・学年経営に努めている。                          | 3.28 | 3 | 3.30 |
|                  | 3-(4)  | 私は、いじめ等の早期発見、早期対応に努めると共に、いじめ等を許さない人間関係づくり、集団づくりに努めている。              | 3.40 | 3 | 3.71 |
|                  | 3-(5)  | 本校は、長期欠席や集団不適應の生徒や保護者に寄り添い、関係機関と連携しながら、可能な支援に取り組んでいる。               | 3.38 | 3 | 3.61 |
|                  | 3-(6)  | 本校は、インターネットやスマホ等の利用に関わる情報モラル教育を行っている。                               | 3.45 | 4 | 3.17 |
|                  | 3-(7)  | 本校では、生徒指導上の諸問題について、職員間で共通理解を図り、担当者だけでなくチームで対応を行っている。                | 3.38 | 3 | 3.57 |
|                  | 3-(8)  | 本校は、中1ギャップ解消のために、生徒指導について小中連携が図られている。                               | 3.15 | 3 | 3.35 |
|                  | 3-(9)  | 本校では、授業、特別活動(学級活動、生徒会活動、学校行事など)、部活動など、すべての教育活動の中で道徳教育が行われている。       | 3.48 | 4 | 3.57 |
|                  | 3-(10) | 本校では、生徒や保護者との面談や家庭訪問、スクールカウンセラーや心の教室相談員の活用などを通して、教育相談体制の充実に努めている。   | 3.57 | 4 | 3.70 |
| 保護者              | 3-(1)  | 道徳の授業は、豊かな心を身につける時間になっている。  | 3.22 | 3 |      |
|                  | 3-(2)  | 学校は、生徒の悩みや問題について、家庭と連携を図りながら、適切に対応している。                             | 3.19 | 3 |      |
|                  | 3-(3)  | 学校は、いじめ等の早期発見、早期対応に努めるとともに、いじめ等を許さない人間関係づくり、集団づくりに取り組んでいる。          | 3.21 | 3 |      |
|                  | 3-(4)  | スクールカウンセラーや心の教室相談員は、生徒や保護者の悩みや不安を解消するために役立っている。                     | 3.14 | 3 |      |
|                  | 3-(5)  | 学校行事(学園祭、音楽発表会、修学旅行など校外行事、儀式など)は、望ましい人間関係、集団への所属感や連帯感などの育成につながっている。 | 3.40 | 4 |      |
| 生徒               | 3-(1)  | 道徳の授業は豊かな心を身につける時間になっている。   | 3.57 | 4 | 3.62 |
|                  | 3-(2)  | 私は、学校や社会の決まりやマナーを守っている。   | 3.60 | 4 | 3.63 |
|                  | 3-(3)  | 私は、学級や学年に安心できる居場所があり、大切にされている。                                      | 3.52 | 4 | 3.50 |
|                  | 3-(4)  | 私は、様々な悩みや心配事について相談できる先生がいる。   | 3.31 | 4 | 3.26 |
|                  | 3-(5)  | 私は「年間の学習計画と生活の記録」に自分の思いを書いている。                                      | 3.32 | 4 | 3.39 |
|                  | 3-(6)  | 私は、自分を大切にするとともに、相手の立場を考えたり思いやったりしている。                               | 3.49 | 4 | 3.59 |
|                  | 3-(7)  | 私は、インターネットやスマホ、ゲーム機の利用について危険性を意識している。                               | 3.55 | 4 | 3.50 |

【分析】

① について

△教職員による自己評価結果を見ると、3-(1)の平均値が3.22であり、前期の3.40を下回った。生徒の3-(1)も平均値が3.57であり、前期の3.62を下回っている。しかし、前期では前年度を上回っており、後期の結果も昨年度よりは高いものとなっている。この結果は、道徳主任を中心にした効果的な授業

の研究を深めながら、日頃より担任を中心に道徳の授業づくりに熱心に取り組んでいる成果であると考えられる。また、教職員の3-(9)の平均点が3.48で、前期の3.57を下回っている。今後も、本校の実態に即した教育活動全体を通しての道徳教育の推進に取り組んでいく必要がある。

② について

△教職員による自己評価結果を見ると、3-(2)の平均値が3.30であり、前期3.57を下回っている。生活ノートの活用、二者・三者面談などの実施、自治活動(学年、学級、生徒会による)の取り組み、生徒指導に関わる情報の共有をはかってきたが、教職員内で生徒指導について再確認が必要となっている。

③ について

○教職員による自己評価結果を見ると、3-(3)の平均値は3.28、前期は3.30であり、大きな変動は見られなかった。また、生徒の3-(3)は3.52であり、前期は3.50であった。これは継続して、日々の生活の中で所属感や自己有用感を感じられるような学級・学年経営に全教職員が一丸となって努めている結果であると考えられる。

④ について

△教職員による自己評価結果を見ると、3-(5)の平均値が3.38であった。前期は3.61であり、評価値の低下が見られた。今年度も継続して、ステップルームの運用やスクールカウンセラーや心の教室相談員との連携など、不登校や集団不適應の改善に組織的に取り組んでおり、改善に努めている。また、長期欠席者に対し、特別支援コーディネーターが中心となり、関係機関を入れたケース会議を開くなど、組織的な対応につなげている成果であると考えられる。また、悩みを抱える保護者の支援を推進のため、「子どもと向き合う保護者の集い」を継続して実施している。それでも、長期欠席生徒の増加もあり、評価値は減少したものと考えられる。

△教職員の3-(10)の平均値が3.57であり、前期は3.70であった。今年度も教育相談や家庭訪問、三者面談等を行い、学級担任を中心にきめ細かく家庭と連絡をとりあい、スクールカウンセラーとも連携しながら教育相談体制の充実に努めているが、不登校や集団不適應の大幅な改善になかなか結びつかない現状が関係していると考えられる。

⑤ について

△教職員による自己評価結果を見ると、3-(4)の平均値が3.40であった。前期は3.71であった。いじめについて、日頃から全教職員による丁寧な生徒の観察や定期的なアンケートはじめとする早期発見、未然防止を常に意識して、生徒の変化を敏感に捉え、迅速に指導・対応を心がけているが、生徒の様子をじっくりと見られ、じっくり関わるゆとりが今後求められる。また生徒の3-(4)の平均値が3.31であり、前期が3.26であった。様々な悩みや心配事について、相談できる体制や雰囲気作りに継続して取り組んでいく必要がある。

⑥ について

○教職員による自己評価結果を見ると、3-(6)の平均値が3.45であり前期は3.17であった。昨年度に比べて前期は増加し、さらに後期では一層の増加が見られた。生徒の3-(7)の平均点は3.55であり、前期は3.50であった。技術科、道徳、特別活動等で、情報モラルのことについては学ぶ機会があった。また、ゲームネット安全利用教室を外部講師を招いて実施した結果と考えられる。

⑦ について

△教職員による自己評価結果を見ると、3-(7)の平均値が3.38だった。前期は3.57であり、評価値は下回った。生徒の様子は学級担任だけでなく指導に関わった教職員により、学級ごとに生徒指導個人記録簿に記録することになっており、日々の対応を記録しているが、口頭で伝えただけで記録をしないなど、徹底しきれていない現状もある。さらに、これをもとにしながら、生徒情報共有会議で情報を共有し、生徒理解に努め、指導や対応に当たっている。しかし、共通理解とチームとしての対応が不十分であった可

能性があるため、今後の生徒指導では情報共有、共通理解とチームでの対応を推進していく必要がある。

#### ⑧ について

○教職員による自己評価結果を見ると、3－（8）の平均値が3.15、前期は3.35であった。中学入学にあたり小中連携はかるために情報共有を行っているが、実際に入学した後に、必要な情報が得られていないことに気づくことがあり、課題が見られる。また、実際に1年生の指導を振り返り、中学1年生の指導の大変さが評価値に現れたものと考えられる。

### 【改善策】

#### ① について

- ・今後も学級担任が教材研究の際に、学年内の先生や他学級の担任と情報交換を密にし、議論する道徳の授業づくりや生徒一人ひとりにそった評価につなげる。
- ・学年主任や学年所属の先生にも授業実践を行うなど、全職員で指導にあたる姿勢を継続する。
- ・本校の実態に即した教育活動全体を通しての道徳教育の推進を継続していく。

#### ② について

- ・引き続ききめ細やかな生徒指導に努めていく。
- ・共感的な生徒理解がポイントになるため、生徒の話をよく聴き、多様性を尊重しながらも、生徒によく考えさせて、生徒が納得できるような指導を心掛けていく。
- ・生徒指導提要について教職員間で再確認を行い、生徒指導のあり方について学んでいく。

#### ③ について

- ・日常的な取り組みや委員会活動、さらには学園祭、音楽発表会などの行事などを通して、生徒主体の自治活動を引き続き推進していく。
- ・1学期末に実施したハイパーQUの結果を分析し、全教職員で共有しあった。2学期末に実施した結果についても同様に比較分析し、共有していく。そして、誰もが所属感や自己有用感を感じられるような学級・学年経営のための資料として活用する。
- ・夏季休業中に実施した「SOSの出し方に関する教育研修会」で学んだことを、生徒に伝えていく。
- ・フリートークを継続していく。
- ・生徒会最大行事である学園祭や音楽発表会などの行事を終えて、適切な反省とフィードバックを行い、所属間と自己有用感を感じられるよう心がける。
- ・部活動では、生徒の実態を踏まえ、どのような力を育ませたいか、明確にしながら取り組む。

#### ④ について

- ・一昨年度より校内にステップルームを開設し、今年度も教室に行けない生徒への学習の保障を行っている。継続して活用していく。
- ・町のチャレンジ教室と協力し、個に応じた学びが展開している。必要に応じて活用していきたい。
- ・2学期にも悩みや不安を抱える保護者に交流や学習の場を提供するために、「子どもと向き合う保護者の集い」を開催した。学校を休みがちであったり、集団になじめないなどの悩みを共有し合う場となった。今後も学期に一度開催予定である。保護者に広く周知をし、参加を募っていく。
- ・様々な課題を抱えた生徒が多い本校なので、教職員が一人で抱え込むことなく、チームとして対応していくことができる職員室内の雰囲気をもさらに大切にしていく。
- ・養護教諭やスクールカウンセラー、心の相談員や関係機関とも連携しながら、教育相談体制の充実に努める。

#### ⑤ について

- ・いじめはどこでも起こりうるものという認識を持ち、いじめアンケートや生活ノートへの記述内容、二者

面談、生徒の表情などあらゆるものから情報を積極的に収集し、早期発見、早期対応に努めていく。

・学校教育活動全体を通じて自他の大切さを自覚するための人権教育を推進していく。

#### ⑥について

- ・昨年度、各クラスで行った「情報モラル」に関する授業を、今年度も2学期・3学期でクラスごと行う。
- ・長期休業の前に、情報モラル学習会、講演会等、SNSの安全な利用等を学ぶ会を企画、実施していきたい。
- ・7月12日（水）に南部警察署と連携し「防犯講話」を実施した。そこでは、インターネットに関わる犯罪についての講話を聞くことができた。このように継続して外部機関と連携していく。
- ・12月8日（金）には、ゲームネット安全利用教室を実施した。山梨県民生活センターから講師を招聘し、情報モラルについて学んだ。昨年度に続いての実施であった。継続していく。
- ・情報主任、養護教諭等と相談、連携しながら指導体制を確立し、より効果的な情報モラル教育を推進していく。

#### ⑦について

- ・生徒指導上の諸問題について、共有の在り方やスクールカウンセラーとのさらなる連携などもさらに有効に働くようにする。
- ・困難さを抱えた生徒や保護者やスクールカウンセラー、さらには他機関との有効な連携にどのようなものがあるか、学年部の中で課題を洗い出し、必要な連携を行っていく。
- ・全教職員の共通理解に関しては、日常的に職員室で生徒に関する情報の連絡・報告を行うとともに、掲示板の効果的な活用や生徒指導記録簿をその都度、分掌ごと責任をもって記録する。学年主任はそれらの情報をしっかり管理・とりまとめを行い、生徒情報共有会議で提案し、情報共有されたことを学年間に持ち帰り、共通理解の徹底を図っていく。

#### ⑧について

- ・小学校との授業参観を相互に行い、情報交換を丁寧に行う。
- ・身延高校との連携は数学・英語のサポートも含め、引き続き継続していく。
- ・中学入学にあたり小中連携はかるための情報共有では、今まで以上に多様な情報を収集するようにする。

**4 健康な身体の保持と体力向上を図り、健康安全への実践力を高める。** <\*体育主任, 教頭, 保健主事, 養護教諭, 部活動主任>

- ① 保健体育の授業を中心に、教育活動全体を通じて自ら運動を実践する態度を育て体力の向上を図る。
- ② 部活動地域移行を視野に入れ、「南部中部活動に係る活動方針」のもと、生徒を主体にした適切で効果的な部活動運営に努める。
- ③ 健康・安全・食に関する教育を推進し、健康で安全な生活を送るための生活習慣の形成に努める。
- ④ 生徒や教職員の健康管理に努め、情報を共有するとともに、緊急時の対応を的確に行う。

| 4 体力の向上と健康安全 |       |   |      |   |      |
|--------------|-------|---|------|---|------|
| 教職員          | 4-(1) | 私の学校では、保健体育の授業や部活動、体育的行事などを中心にして自ら運動を実践する態度の育成と体力の向上に努めている。         | 3.55 | 4 | 3.59 |
|              | 4-(2) | 私は、本校の「部活動に係る活動方針」に基づき、生徒を主体にした適切で効果的な部活動運営に努めている。                  | 3.53 | 4 | 3.45 |
|              | 4-(3) | 本校では、健康・安全・食に関する教育の充実が図られ、健康で安全な生活習慣を身につけられるよう指導している。               | 3.38 | 3 | 3.57 |
|              | 4-(4) | 本校は、生徒や教職員の健康管理に努め、健康に関する情報が共有され、緊急時の準備や心構えができています。                 | 3.40 | 3 | 3.26 |
| 保護者          | 4-(1) | 学級活動(学級での話し合い活動や取り組み)は、自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育成するためにつながっている。           | 3.27 | 3 |      |
|              | 4-(2) | 生徒会活動(委員会活動や生徒総会など)は、より良い学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度の育成につながっている。 | 3.33 | 3 |      |
|              | 4-(3) | 部活動は、生徒の技術や体力の向上、異年齢集団の中でのコミュニケーション能力の育成などにつながっている。                 | 3.36 | 3 |      |
|              | 4-(4) | 学校は、生徒の健康状態を把握し、適切に対応している。  | 3.27 | 3 |      |
| 生徒           | 4-(1) | 先生は、生徒の健康状態を把握し、けがや病気に適切に対応してくれる。                                   | 3.64 | 4 | 3.67 |
|              | 4-(2) | 保健体育の授業や体育的行事は、体力を向上させ、運動習慣に役立っている。                                 | 3.58 | 4 | 3.53 |
|              | 4-(3) | 学校では、健康や安全、食の大切さを学ぶ機会がある。   | 3.66 | 4 | 3.68 |

**【分析】**

生徒評価の平均値がほぼ3.6と高い数値となっている。これは、先生方が部活動や学校行事の中で体力の向上について熱心に指導していること、また、健康安全について日頃から丁寧に対応していることの結果であると考えられる。教職員の自己評価でも平均値が全項目3.3以上となっている。前期と同様に高い値ではあるが、生徒の結果とは少し差があった。教職員の課題意識の高さと、改善すべきことがあるということの表れだと考える。保護者評価では、平均値が約3.3という数値となっており生徒の結果とは少し差があった。

- ① について 教職員による自己評価を見ると、4-(1)の平均値が3.55と高い値となった。保健体育の授業の充実については、楽しく行い、身につける授業づくりを目指して取り組むことができた。今後も生徒が主体的に深い学びにつながる授業を組み立てていく必要がある。今年度は、運動部が南部町駅伝に参加するので、引き続き多くの教職員で関わりながら体力づくりへの意識を高めていきたい。また、水泳や柔道などコロナ禍で積極的に行えなかった授業や、学園祭の体育部門の取り組みを充実した活動にできた。生徒の評価では、4-(2)の平均値が3.58という高い値となった。引き続き運動習慣を身につけさせるためにも、健康体力づくり一校一実践運動を職員全体で共有し、全校体制で取り組んでいきたい。
- ② について 教職員による自己評価を見ると、4-(2)の平均値が前期3.45から今年度後期は3.53に上がった。部活動については、部活動方針のもと南部中の伝統や教員の熱心できめ細や

かな指導により、高い意識の中で部活動が行われていることの結果だと思う。しかし、保護者評価では、3.3と少し差があるため、保護者にも部活動の意義や役割、それぞれの部活動の方針などを示し、それを理解してもらえるように努めていきたい。今後も計画的で生徒が主体的に取り組める部活動運営をすすめていきたい。また、部活動地域移行や教育内大会について、まだ見通しの持てない状況もあるが、それらも視野に入れながら、生徒にとってより良い活動を目指していきたい。

- ③ について 教職員による自己評価を見ると、4-（3）の平均値が3.38、生徒の評価では、4-（3）の平均値が3.66と大きくは変わらなかった。生徒評価は高い数値となっていることから、健康・安全・食や生活習慣について、生徒に丁寧で適切な関わりや指導が行われていることが分かる。また、今年度、健康体力づくり一校一実践運動として、「睡眠時間が6～8時間以上」の割合を90%以上にすることを目標値としている。睡眠については、今とても重要視されていることである。教職員全体での関わりと、保健体育、委員会活動の取り組みを通して、睡眠に関する教育を推進したい。
- ④ について 教職員による自己評価を見ると、4-（4）の平均値が前期3.26から後期3.40となり、生徒の評価では、4-（1）の平均値が3.64という高い値となった。日常の健康観察や健康管理・教育等について、教員の日頃から生徒一人一人への声かけ、丁寧で適切な関わりが行われていることが分かる。同時に養護教諭を中心としたきめ細やかな対応、迅速な行動、測定やおたよりの発信等の健康教育がしっかりと行われている。また、食物アレルギーなどの対応や共有も行われている。生徒の評価は高い値ではあるが、保護者の数値は3.27と高くはないことに注視し、保護者への連絡など、関わりを大切にしておきたい。また、教職員も緊急時の対応や生徒の健康状態を共有していきたい。

#### 【改善策】

##### ① について

- ・ICT活用など、生徒が主体的で深い学びにつながるように研究すすめていく。
- ・新体力テストの結果をもとに分析し、全教職員、全生徒に還元し、2学期から次年度の1学期までの具体的な活動を計画・実施する。その中で、年間通じて、全校教職員・全生徒で定期的に活動できる時間や場の設定をする。
- ・保健体育の授業や部活動を通して、生徒の心身の成長、技能・体力の向上を図ることができたので、限られた時間の中で、それをさらに継続、発展させていくために、授業の中での体力作りや部活動のトレーニングメニューの工夫をし、生徒が主体的に取り組めるような仕組みをつくる。
- ・授業前の800m走をできるだけ実施する。

##### ② について

- ・生徒だけでなく保護者にも南部中学校部活動運営方針や各部活動の方針を示し、丁寧に説明する中で部活動を行う目的や目標をしっかりと確認する。
- ・短時間でも、成果が上がるように練習メニューを工夫し実践する。特に冬場は朝練の時間が確保できないので全部活動一斉にトレーニングをする時間も定期的に設ける。
- ・部活動地域移行を視野に入れ、国や県の動向をつかみつつ検討していく。

### ③について

- ・保健健康教育（保健の授業）においては、より専門的に、そして生徒の深い学びにつながるように養護教諭や外部の方にも入っていただいたりしながら、生徒の実態などに合わせた指導を行う。
- ・保健・給食委員会と協力して食育を推進する。健康体力づくり一校一実践運動として、「睡眠時間が6～8時間以上」の割合を90%以上にするための取り組みをする。生活リズム記録シートの取り組みを続けていく。
- ・生徒指導を中心に、生徒自らの危険回避能力の育成、防犯（スマホSNS等）防災教育を定期的に行う。

### ④について

- ・引き続き、感染症対策を進めるとともに、生徒の健康に関する情報の共有や、職員の健康管理に関する意識を高めていく。
- ・保護者への連絡や報告を徹底していく。

## 5 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実に努める <※特別支援コーディネーター、教務主任>

- ①校内委員会や個別のケース会議を開催し、個別の生徒の実態を共有し、合理的な配慮のある効果的な支援を行う。
- ②特別支援学校や医療機関など外部の関係機関と連携して、効果的な支援を推進する。
- ③多様性を認め合える集団づくりのための交流・共同学習等、障がい（者）理解教育の機会を設定する
- ④特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のため、実態に応じた校内研修を実施する。

| 5 ニーズに応じた特別支援教育・多様性 |       |  |      |   |      |
|---------------------|-------|--|------|---|------|
| 教職員                 | 5-(1) | 本校は、運営会議や生徒情報共有会議・ケース会議を開催し、支援が必要な生徒に対して、可能な合理的な配慮のある支援を行っている。       | 3.62 | 4 | 3.52 |
|                     | 5-(2) | 本校は、特別支援学校や医療機関、福祉保健課や子育て支援課などの関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な支援を進めている。 | 3.52 | 4 | 3.61 |
|                     | 5-(3) | 本校は、多様性を認め合うための交流学習・共同学習や障がい（者）理解教育の場面を設けている。                        | 3.15 | 3 | 2.95 |
|                     | 5-(4) | 本校は、特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のために、実態に即した校内研修を実施している。                    | 2.80 | 3 | 3.00 |
| 保護者                 | 5-(1) | 学校は、一人一人の生徒の個性を尊重し、様々な障がいを持っている人に配慮している。                             | 3.27 | 3 |      |
|                     | 5-(2) | 学校は、特別支援学校や医療機関、福祉保健課や子育て支援課などの関係機関やスクールカウンセラーと連携を図りながら効果的な支援を進めている。 | 3.31 | 3 |      |
| 生徒                  | 5-(1) | 学校では、様々な人の違いや障がいを持っている人について考える機会がある。                                 | 3.45 | 4 | 3.54 |
|                     | 5-(2) | 私は、困っている人の役に立ちたいという思いがある。  | 3.62 | 4 | 3.60 |

### 【分析】

#### ① について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(1)の平均値が 3.62 であった。これは前期より 1 ポイントアップしている。生徒情報会議等での情報交換によって、全職員が情報を共有することが出来た。その結果、様々な事例に対し素早く対応ができた。また継続的な支援も行われている。そのようなことが前期に比べアップの要因につながったであろうと思われる。

#### ② について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(2)の平均値が 3.52 であった。これは前期より 0.9 ポイント下回った。今後はさらに S C、医療機関、児童相談所、特別支援学校等の関係機関との連携を更に深めていく必要があると思う。

#### ③ について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(3)の平均値が 3.15 であった。これは前期より 2 ポイントアップしている。本校はステップルーム、特別支援学級、保健室など生徒が過ごしやすい場所が複数設置されているが、交流学級においても参加しやすい場面を、各学年で作ってくれていることが要因だと思う。

#### ④ について

○教職員による自己評価結果を見ると、5-(4)の平均値が 2.80 であった。これは前期の値を 2 ポイント下回った。来年度は、校内研の中に特別支援研究の研修（出来れば夏季休業中の校内研）に位置づけ、特別支援教育の理解を深めるために講師を招聘し研修を実施していきたいと思う。

### 【改善策】

#### ①・③について

・前期より数値が上回った。継続して対応していくと同時に、数値に現れない部分についても見逃さず対応していきたい。

#### ②・④について

・S Cや関係機関との連携を更に深めていくとともに、来年度の校内研修において講師を招聘し、講演などをしていただくなど、職員の特別支援教育の理解を深めていくよう計画していきたい。



**6 安心・安全を基盤とした、家庭や地域とともにある学校づくりに努める。** 〈\*教頭，教務主任，各学年主任〉

- ① 学校運営協議会の機能を充実させ，学校支援地域本部と連携を図る中で，コミュニティ・スクールとして家庭や地域，関係機関との連携・協働を進め，地域とともにある学校づくりを推進する。
- ② 地域の人的・物的資源の学校教育への活用と学校と中学生が地域に貢献する活動を積極的に進める。
- ③ 学校安全計画，防災・防犯等の危機管理マニュアルや防災・防犯教育を実行性のあるものに改善するとともに，地域・保護者・関係機関との連携を強化し，安全管理体制の充実・徹底を図る。
- ④ P T Aとの連携を深め，保護者同士の繋がりを強化し，家庭教育の推進を図る。

|     |       |  |      |   |      |
|-----|-------|--|------|---|------|
| 教職員 | 6-(1) | 本校は、学校運営協議会の機能を活用し、コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。              | 3.65 | 4 | 3.65 |
|     | 6-(2) | 本校は、地域の人的・物的資源を教育活動に活用するとともに、生徒が地域に貢献する活動を推進している。                    | 3.43 | 3 | 3.35 |
|     | 6-(3) | 本校は、危機管理マニュアル等を実効性のあるものに改善しているとともに、保護者や地域、関係機関と連携して安全管理体制を整えている。     | 3.48 | 4 | 3.52 |
|     | 6-(4) | 本校は、PTAとの効果的な連携を深め、学校と家庭、保護者同士の繋がりを強化している。                           | 3.30 | 3 | 3.35 |
| 保護者 | 6-(1) | 学校は、保護者や地域の意見や声を積極的に聞くための機会や場を設定している。(学校評価や各種アンケート、学校運営協議会の取り組みも含めて) | 3.30 | 3 |      |
|     | 6-(2) | 南部中学校の生徒は、地域の行事に積極的に参加している。  | 3.36 | 3 |      |
|     | 6-(3) | 学校は、有効な防災、防犯のための訓練や教育を行っている。(保幼小中合同引き渡し訓練も含む)                        | 3.46 | 3 |      |
|     | 6-(4) | 学校は、校舎内外の施設・設備を点検し、安全に配慮している。  | 3.31 | 3 |      |
|     | 6-(5) | 学校は、学校行事や学校開放日を活用し、保護者や地域の方々に活動の様子を積極的に公開している。                       | 3.46 | 3 |      |
|     | 6-(6) | 南部中学校の生徒は、学校の内外を問わず、よく挨拶をする。   | 3.24 | 3 |      |
| 生徒  | 6-(1) | 私は、地域の自然や歴史・文化を学んだり、体験したりすることの意義を感じる。                                | 3.41 | 4 | 3.33 |
|     | 6-(2) | 私は、地域の役に立ちたいと考えている。(地域行事への参加も含めて)                                    | 3.38 | 4 | 3.39 |
|     | 6-(3) | 私は、非常災害時に備えた避難訓練に真剣に参加している。  | 3.56 | 4 | 3.52 |
|     | 6-(4) | 校舎内外の学校の施設や設備は、安全である。  | 3.52 | 4 | 3.54 |
|     | 6-(5) | 私は、学校でも地域でも、あいさつ心がけている。  | 3.57 | 4 | 3.59 |

**【分析】**

①について

○教職員アンケート 6-(1)の平均値が前期と同様の 3.65 であった。今年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられたため、第 1 回学校運営協議会 (5/24)、第 2 回学校運営協議会 (9/21)、第 3 回学校運営協議会 (11/23)、第 4 回学校運営協議会 (2/6) や学校開放期間(5月、10月、1月)を予定通り実施することができた。これらにより、家庭や地域・関係機関と連携しながら学校づくりを進めることができた。また、「学校だより」も昨年度に引き続き月に 2 回、定期的に発行し、地域の方々に学校の様子を知ってもらうことができている。あいさつについては、生徒アンケート 6-(5)の平均値が 3.57、保護者アンケート 6-(6)の平均値が 3.24 という結果だった。

②について

○教職員アンケート 6-(2)の平均値が 3.43、生徒アンケート 6-(1)の平均値が 3.41、6-(2)の平均値が 3.38 であった。4 月の 1 年生ふるさと探訪、2 年生県内めぐり・職場体験等の活動、さらには 1 2 月に行われた 1 年生の職業ワイド相談、国語の授業 (全学年) における習字指導などを行った。このことから地域の人的・物的資源の学校教育への活用は十分できたのではないかと考える。また、地域への貢献活動の一環として 6 月と 10 月に地域清掃を行った。

③について

○教職員アンケート 6-(3)の平均値が 3.48、生徒アンケート 6-(3)の平均値が 3.56 であった。危機管理マニュアルの改善や土砂災害避難確保計画、保幼小中引き渡し訓練、様々な場面を想定した避難訓練等を行うことにより、危機管理に関する教師の意識を高めている。さらに今年度は中学生が地域に貢献する活動の取組として、区ごとに中学生の自主防災組織を編成し、地域防災訓練 (9/3) での貢献活動を計画し、実施した。このことから、生徒の

平均値が上昇したのではないかと考えられる。

④について

○教職員アンケート6-(4)の平均値が3.30であった。PTA活動の縮減により効果的なPTA活動の推進を模索しているところである。その中でPTA総会や学年・学級懇談会、PTA本部役員会や評議員会、8月のPTA親子奉仕作業、12月の資源回収などを行うことができた。

**【改善策】**

全体について

新型コロナウイルス感染症の5類引き下げにより、これまで中止・縮小していたいくつかの取組をコロナ前に戻しつつも、今の時代に即した形に工夫しながら取組を進めていく。

①について

・平均値が良好であることから、特別な取り組みを行うのではなく、これまで行ってきた学校運営協議会の機能充実や、学校支援地域本部との連携を図りながら教育活動を進めていきたい。また、あいさつについては、家庭・学校・地域で、大人と子ども、大人同士、子ども同士のコミュニケーションの輪を広げるために「あいさつ運動」を推進し、「あいさつ日本一の町」を掲げている南部町と、「地域とともにある学校」である南部中学校が連携する必要性からも、あいさつの意識を高めるための方策を今後も講じていきたい。

②について

・教職員、生徒それぞれのアンケート結果を見ると、概ねよい数値が得られていることから、取り立てて改善する部分はないと考える。これまで行ってきた行事を継続していき、それぞれの行事の目的が達成されるよう、前年度の反省点を踏まえ立案、実施していきたい。

③について

・引き渡し訓練や避難訓練が訓練のための訓練にならないように生徒はもちろん教職員にも周知していく。さらに、不審者対応、熱中症予防についても実効性のあるものにしていく。自主防災組織の活動については、今年度の反省を踏まえ、よりよい貢献の仕方を模索していきたい。

④について

・授業参観や学年・学級懇談会、学校開放等を通し、保護者同士のつながり、保護者・教職員のつながりをどのようにして強化していくか。これらのことについて、PTAの方々と連携を図りながら模索していく。

**7 教職員としての専門性や指導力を高め、チームとして教育活動を推進する。** <教頭, 研究主任, 情報主任>

- ① 校内研究の充実を図りながら授業改善・指導力の向上を図るとともに、本校の教育課題に関わる校内研修を実施する。
- ② 職員室の同僚性を高め教員としての力量を伸ばし合うとともに、様々な教育課題に「チーム南部中」として力を合わせて取り組む。
- ③ 業務の重点化と精選を行うとともに、統合型校務支援システムの活用を行い、部活動地域移行も視野に入れながら、可能なことから教職員の働き方改革を推進する。

|     |       |   |      |   |      |
|-----|-------|---|------|---|------|
| 教職員 | 7-(1) | 私は、校内研究に積極的に参加し、授業の改善や指導力の向上を図るとともに、学校課題についての校内研修に積極的に参加している。 | 3.10 | 3 | 3.22 |
|     | 7-(2) | 本校は、職員室内で共に学び合い、力量を高め合う関係があり、様々な教育課題に職員全体がチームとして取り組んでいる。      | 3.35 | 4 | 3.39 |
|     | 7-(3) | 本校では、業務の重点化や精選が行われ、可能なことから多忙化の改善が図られている。                      | 3.20 | 3 | 2.95 |

**【分析】**

① について

△教職員アンケート 7-(1)の平均値は 3.10 であった。今年度は、研究主題「気づき・考え・表現し合える生徒の育成」、副主題「資質・能力を着実に身につける主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」のもと、教科別研究やブロック別研究の形態を取り入れながら、校内研究を進めてきている。今年度の特徴としては、主題・副主題に迫るための理論研究、そして授業改善、さらに I C T 機器の効果的活用があげられる。指導主事・助言者をお呼びしての研究授業は 1 年生社会科、3 年生数学、2 年生英語で行い、研究主題・副主題について検証を行った。また、校内研修としては、「S O S の出し方に関する教育研修会」を、講師をお呼びし実施したり、「インクルーシブ教育システム推進研修」で動画の視聴を行った。

② について

○教職員アンケート 7-(2)の平均値は 3.35 であった。今年度は、企画会議と生徒情報共有会議を隔週で定期的に行っている。これにより、先への見通しを持って教育活動に当たることができたり、生徒の情報を一人ひとりの教職員が持ちながら指導に当たることができている。

③について

○教職員アンケート 7-(3)の平均値は 3.20 であった。今年度の取組としては、職員会議の効率化を図った。具体的には、開始時刻を早めたり、運営会議に協議事項を移したりすることにより、終了時刻を早めることができた。また、「きずなの日」を有効利用することによって、教職員が生徒に関わる時間の確保もできた。さらに統合型校務支援システムの掲示板機能をフルに活用した。これらにより、昨年度(2.72)・今年度前期(2.95)に比べ改善されてきている。来年度を見越して、現在、年間行事予定の見直しを行っている。

**【改善策】**

① について

- ・本校の教育課題である I C T 活用と長期欠席者や不適応生徒、特別支援教育などについてはいくつかの研修を行うことができた。ただ、数値が前期よりも下がっていることから、研修の回数だけではなく、内容についても吟味し、充実させていきたい。防災、危機管理などに関する研修については今後の検討課題である。

② について

- ・教職員同士の学び合いの姿勢やOJTについて、幅広い年齢層のメリットを生かし、教職員集団としての資質・能力を向上していきたい。

③について

- ・教職員の働き方改革について、今後も推進していく必要がある。そのためには業務の重点化と精選に加えて、組織の改編及び諸会議の見直しなどの学校運営に関わる改革をさらに検討し、推し進めていく。具体的には、年間行事計画を作成する上で縮減できるかどうかの検討をすること、確認等で済む職員会議の議題を隔週で行われている運営会議に移動し、職員会議のスリム化を図る等に取り組む。
- ・管理職は勤務時間外在校時間が月45時間を超えた教職員への退勤を呼びかける。
- ・年休取得計画を作成し、年休取得の促進を図る。
- ・（生徒の安全な下校も含め）下校時刻を早めるなどの検討をするとともに部活動業務の改善について検討し、実施する。

| 8 その他 |       |  |      |   |      |
|-------|-------|--|------|---|------|
| 教職員   | 8-(1) | 輝城祭や音楽発表会は、生徒の豊かな心を育て、自己有用感や成就感を得られる行事になっている。(後期のみ)                                | 3.75 | 4 |      |
|       | 8-(2) | 身近な職業調べ、職場体験学習、ワイド相談、キャリアセミナー、進路学習などはキャリア教育の視点で意義ある行事になっている。                       | 3.60 | 4 | 3.57 |
|       | 8-(3) | ふるさと探訪、スキー教室、県内めぐり、修学旅行などは、集団生活や社会でのルールやマナーを学び、自治的能力を育む機会になっている。                   | 3.65 | 4 | 3.74 |
| 保護者   | 7-(1) | 生徒は、学校のたよりや通知、連絡物を保護者にきちんと渡している。   | 3.05 | 4 |      |
|       | 7-(2) | 学校は、各種のたよりやホームページなどで学校の様子を保護者に伝えている。   | 3.31 | 3 |      |
|       | 7-(3) | アシスト授業や行事や部活動での連携など、南部中・身延中・身延高校の「中高連携」の取り組みは、「学習意欲の向上」や「基礎学力の定着」につながっている。→(3年保護者) | 3.13 | 3 |      |
| 生徒    | 7-(1) | 私は「脚下照顧」「無言清掃」「合唱」「応援」「集団行動」など南部中の文化は大切だと考えている。                                    | 3.67 | 4 | 3.70 |
|       | 7-(2) | 私は、学校のたよりや通知、連絡物は保護者にきちんと渡している。  | 3.43 | 4 | 3.47 |
|       | 7-(3) | 私は、学校が楽しい。   | 3.41 | 4 | 3.51 |

- 教職員アンケート 8-(1)の平均値が 3.75、8-(3)が 3.65 と高い評価であることから、教職員は輝城祭、音楽発表会、ふるさと探訪、スキー教室、県内めぐり、修学旅行などは教育的価値が高い行事であると感じている。
- 生徒アンケート 7-(1)の平均値が 3.67 と高い評価であることから、「脚下照顧」「無言清掃」「合唱」「応援」「集団行動」などの南部中の文化を大切だと感じている。
- 生徒アンケート 7-(3)「私は学校が楽しい」についての平均値は 3.41 であることから、多くの生徒が学校を楽しんでいる。一方、「そう思わない」と答えた生徒が 3 人(2.6%)、「あまりそう思わない」と答えた生徒が 12 人(10.3%)おり、それらの生徒がなぜそう感じるのかという理由を探るとともに、学校教育の中でそれらの生徒が楽しさや満足感を感じられる手立てを考えていきたい。